

大還暦 乾田馬耕から120年 農聖 齋藤宇一郎先生を偲んで

後世に伝えたい 宇一郎先生の想い

半世紀をこえ 宇一郎先生にふれて

思 い返すと長いもので、昭和37年（1962）から平成30年（2018）までの56年間、半世紀をこえて齋藤宇一郎記念会の事務局として、5人の歴代会長のもと、宇一郎先生の顕彰事業に関わることができたことは大変光栄で、たくさんのお会いがあったことに感謝しております。

昭和17年（1942）、齋藤宇一郎記念会は秋田県内では他の先駆けとして第1号の財団法人となりました。更に、宇一郎先生の想いを後世に伝えていく事業を通じて社会貢献していこうと、平成26年（2014）に公益財団法人となりました。ここに至るまではさまざまな問題もあり長く険しい道のりでしたが、歴代会長さんたちの想いを成就できたことは、とても感慨深く感じております。

新 しい次の世代を担う小学校児童の皆さんとも宇一郎先生を通じてたくさんふれ合うことができました。小学3年生は昔の道具の勉強、そして4年生になると郷土の偉人・宇一郎先生の勉強をしに来てくれました。子どもらしい面白い感性の質問には私自身も新しい発見があったりと、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

皆さんにはこれから成長していくうえで、問題にぶつかっても、宇一郎先生のような偉大な精神に学んだことを思い出して道を切り開いて欲しいと思います。人をつくることが町をつくり、そして社会をつくる、このことを忘れないで郷土のためがんばってくださることを切に願っています。



公益財団法人 齋藤宇一郎記念会
いがらし きみこ
前事務局長 五十嵐 公子 さん

昭和37年から事務局員、昭和58年から事務局局長を務め、平成30年3月に退職。56年という半世紀をこえて、宇一郎先生の顕彰活動や記念館の展示案内、監修を行う。（平沢）

齋藤宇一郎記念館（仁賀保勤労青少年ホーム内）

昭和37年（1962）5月、齋藤家の米蔵を改造して齋藤宇一郎記念館が開館。昭和56年（1981）、齋藤家跡地に仁賀保勤労青少年ホームが完成。第1展示室で齋藤宇一郎先生の業績を紹介しているほか、遺品や農具、民俗資料、また旗本仁賀保家史料を収蔵展示しています。
▷開館時間…9:00～17:00 ▷休館日…月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）
▷入館料…一般150円、学生・小人100円（15人以上は団体割引：一般120円、学生・小人80円）
※にかほ市内小中学生は入館無料です。展示案内も行ってありますのでお気軽にお声掛けください。



械化により、後継者問題は多少なり軟化できています。また、水田の汎用化により、大豆、花き、飼料米の作付け等も一定の面積を確保しつつあります。農業運営は個人、集落単位、法人という将来構想を練りながら、出来る範囲の法人化設立のもと意欲のある若者が「夢のもてる農業」へと進展を図ることが必要です。それらに伴う農業運営の安定化は、今後、にかほ市が発展していく路線にも繋がるものと信じております。

明 治から大正という時代背景の中で、中央と地方の文化、教育、産業など、すべての面において較差を縮めるために全精力を注いだ宇一郎先生。なかでも乾田馬耕の指導、インフラ整備にあたっては私財を投じる覚悟のもと、地域発展に献身的に寄与されました。その努力の経過と結果がどのようなものであったのかは齋藤宇一郎記念館に展示してあります。文献等に目を通していただき、皆さま自らの歩みに新しい一歩を

加えていただければと思います。大正15年（1926）5月10日に逝去された宇一郎先生ですが、今年で没後95年を数えます。5年後には100回忌という節目を控え、今後とも記念会一同知力を出し合い宇一郎先生の想いを後世へと伝えて参りますので、関係各所の皆さまのご協力をお願いいたします。そして、市民の皆さまにはお気軽に齋藤宇一郎記念館にお立ち寄りください。温故知新に浸っていただければ幸いです。

前

会長、佐藤範義さんのご逝去に際し、当時常務理事を務めていましたが、浅学ながらその要職を継いだのが3年前になります。宇一郎先生の郷土への想い、そして記念会の発展のため微力ではありますが貢献できれどと思ひ今に至っております。

公益財団法人として活動している齋藤宇一郎記念会では、大正15年（1926）の設立以降、多年にわたり宇一郎先生の業績を顕彰しながら、地域文化の継承、農業振興、山林を活用した環境保全意識の向上、若手の人材育成を推進しています。また、秋田県種苗交換会での記念会賞の授与や、最近ではJA秋田しんせい様よりご推奨いただき、プレミアム米、畜産、青果、花き、特用林産などの各部門の優良農家への記念会賞の授与も行わせていただいております。

そして、前頁でも触れている7月12日の例大祭です。例年、仁賀保・齋藤神社に響き渡る「齋藤宇一郎先生を讃へる歌」。平沢小6年生児童の歌声にピリッと身の引き締まる思いを感じていましたが、新型コロナウイルスの影響により中止せざる得ない状況となりました。まったことは大変残念であります。

農

業三是、皆さんはご存知ですか。「一、深耕一、堆肥一、排水」です。宇一郎先生の三是を私たちは昔から良質米多収への基礎的農法として聞かされてきました。過去には馬耕大会、堆肥検査、排水検査などが行われ、優秀な農家は表彰されていたとも聞いたことがあり、この地が良質米を増産できている基軸になったのだと理解しています。

そして、昨年は記念会としても大変うれしい出来事がありました。7月16日、秋田キヤッスルホテルで行われたJA全農あきた主催による「あきたこまちデビュー35周年記念く全県JA稲作担当営農指導員大会」において、この農業三是が大会スローガンとして宣誓

されたのです。石川理紀之助、森川源三郎、そして齋藤宇一郎。秋田の三大農聖であり、農村指導の巨星として紹介されたことは大変名誉なことでありました。

夢

のもてる農業、宇一郎先生の築いた農業基盤のもと、今後の展望について考えてみたいと思います。ご承知のとおり、農業経営者の平均年齢の高まりに伴う高齢化は避けては通れない大きな課題です。これにはかほ市に限ったことではなく、簡単に解決できるものではありませんが、まずは農産物の需要動向の早期把握と後継者育成に向けての魅力ある農業展開が必要だと考えております。大規模な基盤整備や大型機



「乾田馬耕創業之地」記念碑の前にて

公益財団法人 齋藤宇一郎記念会
しょうじ のりひこ
会長 庄司 範彦 さん

仁賀保町議会議員、にかほ市議会議員を歴任し、自身も農業と畜産を営みながら、現在は記念会会長を務める。（伊勢居地）

公益財団法人 齋藤宇一郎記念会

大正15年（1926）5月15日、齋藤宇一郎先生が逝去された5日後に発足。事務局を仁賀保勤労青少年ホームに置き、事務局員が常駐し顕彰活動や齋藤宇一郎記念館の展示案内などを行っています。現在、庄司範彦氏が11代目の会長となり、理事・役員28人が記念会事業の執行・監督にあっています。齋藤宇一郎先生について知りたい方や顕彰活動に興味がある方は齋藤宇一郎記念会で一緒に活動してみませんか。ぜひご連絡ください。

☎ 齋藤宇一郎記念会事務局 ☎ 35 - 4057